

授業科目	老年看護学 目的・対象論	実務経験	開講時期	単位数	授業形態	時間数
		◎	1 年次後期	1 単位	講義	30 時間
到達目標	1. 老年期を生きる人々の特徴を理解する。 2. 加齢変化に伴う特徴を理解する。 3. 高齢者を取り巻く社会について理解する。 4. 超高齢社会における保健医療福祉制度の変遷について理解する。 5. 高齢者の健康とQOLと倫理的課題について理解する。 6. 超高齢社会における老年看護の役割について理解する。					講師
						専任教員
授業計画						
1～ 2 回	1. 老年期の概念 1) ライフサイクルからみた高齢者 2) 老年期の発達課題 3) 加齢と老化 4) 加齢への適応 (1) 喪失体験と獲得体験 (2) サクセスエイジング (3) 高齢者のスピリチュアリティ					
3～ 4 回	2. 高齢者の健康 1) 高齢者の健康の特徴 (1) 健康指標からの老年期の特徴 2) 聖地的老化と病的老化 3) 高齢者の疾病の特徴					
5～ 6 回	4) 加齢に伴う身体機能の変化 協同学習 (1) 身体的機能の変化 (2) 精神的機能の変化 (3) 社会的機能の変化					
7 回	3. 高齢者の生活 1) 家族構成とニーズの変化 (1) 高齢者と家族 (2) 高齢者の暮らし(経済状態・住まい・就労) (3) 高齢者の社会参加 2) 家族の機能の変化 3) 高齢者とソーシャルサポート					
8 回	4) その人らしい生活の継続 (1) 時代背景に関連する人生と経験の多様性 (2) 生活習慣・生活様式・生活リズム (3) 多様な生活の場とロケーション、地域包括ケアシステム					
9～ 10 回	高齢者疑似体験(演習) 3～4人×10Gに分かれて校内で疑似体験を実施。 レポート提出					
11～ 12 回	4. 老年看護の変遷 1) 高齢者の生活に関連する保健医療福祉制度 (1) 保健医療福祉の変遷(老人福祉法、老人保健法、ゴールドプラン、高齢者医療確保法、オレンジプラン) (2) 介護保険制度 (3) 高齢者医療のしくみ					
13 回	2) 老年看護に関わる理論・概念 (自立支援とエンパワメント・ストレングスモデル・ライフレビュー・コンフォート理論)					
14 回	5. 老年看護の理論 1) 高齢者差別・権利擁護 2) 高齢者虐待 3) 安全確保と身体拘束 4) 権利擁護のための制度 5) 高齢者の意思決定への支援					
15 回	6. 老年看護の特徴 まとめ					
評価方法	修了試験 選択問題又は論述問題による筆記試験(100%)					
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会					
備考	予習においては教科書の該当箇所を確認し、事前に提示された課題については調べてくること。復習においては、授業に関わる確認テストを行なうこともあるため、テキスト・講義資料・参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めておくこと					